

私の思い出の場所
My memorable place

新大工町商店街

思い出をお寄せください



経済学部生の“食の台所”



長澤和彦さん 経済学部・1978年卒業

自宅から片淵まで徒歩と電車で1時間の通学、その後淡々と講義を聴くだけの授業…。そういう単調な日々の繰り返しの中で、私が憩いを感じていた場所、それが「新大工町商店街」でした。

旧長崎街道の玄関口にあたる新大工地区の歴史は古く、諏訪神社の門前市が常設化して明治期に商店街となり、さらに終戦後に公設市場が建てられて発展の礎となりました。昭和43年に玉屋デパートが進出すると、「新大工町」「天満」「新天満」の3軒の市場を中心に連日買い物客が行き交い、正月前には通りがびっしり人で埋まり真つぎ歩けないほど。店の人と客の距離が近く、人情溢れる商店街を形作っていました。

私が通っていた昭和50年前後は、映画館や本屋、レコード店等もあり、主婦のみならず学生にとっても快適な街でした。再映専門館「新大映劇」では低料金で多くの映画を堪能、「好文堂書店」では2～3時間は余裕で立ち読みできました。

遊びの誘惑にも事欠かず、娯楽の殿堂・パチンコ店は「宝会館」。いつでも同級生と出会える不思議な場所で、4人揃えばそのまま裏通りの雀荘へ…というパターンの如何に多かったことか。腹が減れば、蕎麦屋「むさしの」、トルコライスの「ツル茶ん」、お好み焼きの「みやち」。喫茶店は「富士男」「民芸喫茶くらしき」「春本」のかき氷も懐かしい。おやつは「長崎屋」か「平井餅まんじゅう」か。そうそう、経済原論ゼミの児玉元平教授馴染みのスナック(店名は失念)も商店街のはずれにあり、ゼミを早終りしてまだ明るいから盛り上がったものです。貧乏な学生たちにもやさしい、安価で食材が調達できる有難い商店街で、西山や片淵の下宿では、よくさやかな宴会が催されていました。

それからほぼ半世紀、平成には「シーボルト通りオープンモール」として整備された一方、古くからの市場や商店が廃業するなどの紆余曲折を経て、令和4年11



1976年新大工町商店街(写真提供:長崎新聞社)

月、複合施設「新大工町ファンスクエア」が街のランドマークとしてオープン。商店街の賑わいを再生し、新しい魅力を持つ街へと変貌しました。とはいえ、商店街の皆さんの思いは以前と少しも変わらず、消費者のそばに寄り添い、消費者と一緒に街を盛り上げていく、そういう心意気が今も受け継がれています。

まちなか移転も一部で噂される経済学部ですが、商店街周辺地区に住む学生たち、そして商店街に通う学生たちにとって、“食の台所”としての存在は欠かせま



現在の町並み

せん。新大工町商店街の新しい未来に大きな期待を抱くとともに、学生たちの食を支える場所として、これまで以上の繁栄を願っています。

読者プレゼント

長崎大学オリジナルクッキー

洋菓子メーカーコロパンの人気クッキー。クッキーと缶に、長崎大学のロゴをデザインしました。いろいろな味のクッキーが楽しめる一箱です。長崎大学生協で販売中です。



10名様

アンケートのご案内

広報誌Chohoへのご意見・ご感想をお寄せください。プレゼントのご応募も以下より承ります。①面白かった記事 ②本紙に対する意見・感想 ③今後取り扱ってほしい内容 ④長崎大学からの情報発信全般についてのご意見・ご感想 ⑤職業 ⑥年齢 ⑦氏名(ふりがな) ⑧郵便番号 ⑨住所 ⑩電話番号を明記してください。



- ◎ ハガキ 〒851-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学広報戦略本部 宛
- ◎ FAX 095-819-2156
- ◎ メール kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp
- ◎ 応募締切日/2023年6月末 当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます



Choho

直接送付サービス開始!

広報誌Chohoはその多くを、各学部同窓会様の会報誌送付の際に、直近の号を同封してお送りさせていただいて



います。そのため、読者の皆様には、必ずしもChohoを毎月お届けできないケースがあり、「前号も読みたい」「定期送付を希望」といったお声をいただいております。そこで、ご指定の住所へChohoを直送させていただくサービスを始めました。

上記サイトへアクセスいただき、ご登録をお願いいたします。皆様のご利用をお待ちしております。

編集後記

今、世界の核リスクがかつてなく高まっています。本来、世界の平和と安全の維持や、諸国間の友好関係の発展を担う国連において、その活動の中核となるはずの常任理事国ロシアがウクライナに侵攻。しかも、核兵器の使用を示唆し、国際社会を恫喝するという前代未聞の行動に出ました。世界の平和の行方が危ぶまれる今こそ、長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の存在と取り組みを、ぜひ多くの皆様に知っていただこうと考えました。

世界唯一の被爆医科大学である長崎大学にとって、核なき世界の実現は歴史的使命といっても過言ではありません。RECNAは『核兵器廃絶』という人類的課題をその名に冠した世界オンリーワンの大学付属の研究所として、その使命の完遂に邁進しています。そしてそこには、過去を学び、核と平和の問題を自分事として捉え、未来に向けて行動している若い世代が多くなります。

今号では、彼らと彼らを支えるRECNAの教員たちの想いを特集しました。未来へ世代を継いで活動を続けるRECNAの姿をご覧ください。

(広報戦略本部長 松井史郎)

長崎大学 核兵器廃絶研究センター RECNA



RECNAホームページでは、活動状況や市民講座のお知らせなど最新情報を更新中。国際学術誌『Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND)』もご覧いただけます。



<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/>

長崎大学SNSサイト



Facebook



Twitter



Instagram

